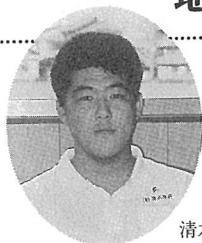


廃棄物を資源物として見直す 地域に密着した処理サービス



清水代表取締役

有限会社清水商店

(愛知県豊川市)

協会の支部活動にも熱心な清水商店社長の清水さんは弱冠28歳の若手ホープ。柔軟な思考で産廃の明日を考えられているようです。

—まず創業のあらましからお聞きしたいのですが。

清水代表取締役（以下、清水に略）『もともと産廃ということではなくて、資源物、いわゆる学校の廃品回収や工場のスクラップなどの回収業を先代がやっております、平成2年に産業廃棄物収集運搬の許可を取りました。当社は本来、資源物収集業でしたからリサイクルの思考が根底にあります。平成6年の8月に法人化しました。現在はほとんど一般廃棄物が主力です。今年に入ってから再生事業としてラインを入れて、分別を始めていますがまだ本稼働ではありません。発展途上というところですか。パッカー車4台とコンテナ車1台で地道にやっていますよ。』

—清水商店ならではのセールスポイントと言いますと。

清水『私が会社組織にしようと言いだした矢先に父が他界したものですから、私が社長で28歳、従業員も20代ばかりの若い会社です。他の業者さんとの違いは資源物から始めてきたこともあってリサイクル品を見分ける目を持っている点です。現在は収集運搬しかやっていますが、いずれは中間処理でマテリアルリサイクルの分野を考えています。焼却処理ではなく破碎とか分別の方ですね。』

—ところで趣味とか特技のようなものは何かありますか。

清水『まあ広く浅くといったかんじなんです。高校で野球をやっていたから、体を結構使ってきました。そんな部分が現在の体力勝負の

業務に活かされているとは思いますが。』

—清水社長の生活信条をお聞かせ願いたいのですが。

清水『野球をしていた頃から思っていたことなんです、自分の中でこうなりたいというものを思い込んで、日々努力していくということ、それが一番大事だと思いますね。楽しんで何かをしようなんて考え方はまったくありません。他人ではなく自分に勝つということです。そのためには近道ではなくあえて遠回りをする必要も必要になってくるかもしれません。これは今の仕事に置き換えると、不法投棄や不適正処理などで安易に処理するようなことをせず、適正処理に努めるということに繋がると思います。地域と密着したサービスを行うには、まず信用が大事ですから。』



社名/有限会社清水商店 所在地/愛知県豊川市中部町2-51
代表者/清水宏臣 創業/平成6年 従業員/6名 TEL/05338 (6) 8517
事業所/本社 営業種別/収集運搬
取扱い品目/燃え殻、汚泥、廃油、廃プラスチック、紙くず、木くず、動植物性残渣、全職くず、ガラス・陶磁器くず、鉱さい、建設廃材、感染性産業廃棄物